

(3) とうもろこし

(ア) 病害

病害虫名及び 防除時期	防除方法及び注意事項
苗立枯病 ピシウム苗立 枯病 は種前	薬剤防除 1. 種子消毒 は種後低温に経過すると多発するので、そのような年に効果が高い。 (1) 種子粉衣：苗立枯病 (2) 種子塗沫：ピシウム苗立枯病
黒穂病 全期間	耕種的防除 1. 発病地では3年以上の輪作を行う。 2. 出穂後に発病した穂は早期に切り取って適正に処分する。
褐斑病 全期間	耕種的防除 1. 輪作を行う。 2. 本病が発生した場合は、収穫した茎葉をほ場の付近に置かない。
すす紋病 全期間 7月下旬～	耕種的防除 1. 窒素、カリ肥料及び堆肥を十分に施用する。 2. 本病が発生した場合、収穫後の茎葉はほ場付近に置かない。 3. 本病の発生が少ない品種を栽培する。 4. 連作を避ける。 薬剤防除 1. 茎葉散布
褐色腐敗病 絹糸抽出始と 10日後	耕種的防除 1. 発生の少ない品種を栽培する 薬剤防除 1. 茎葉散布

(イ) 害虫

病害虫名及び 防除時期	防除方法及び注意事項
キタショウブ ヨトウ 作付前	耕種的防除（草地跡に作付けする場合） 1. 当該草地の6月中旬における被害茎（心葉の萎ちょう・枯死）が2割程度以上あれば翌年のとうもろこしは大きな被害を受けるので、成虫発生期（7月下旬～9月中旬）以前に反転・耕起する（産卵防止）。

病害虫名及び 防除時期	防除方法及び注意事項
6月上旬～中 旬	又は翌年に非寄主作物（てんさい・紫かぶなど）を導入する。 2. とうもろこしの発芽当初から被害が多い場合は、ロータリーハローの2回がけによって幼虫密度を下げ再播する。
タネバエ は種時	薬剤防除 1. 種子塗沫
ネキリムシ類 (ヤガ科) 出芽時	薬剤防除 1. 土壌表面散布
ハリガネムシ 類 (コメツキムシ 類) は種時	耕種的防除 1. 牧草跡地で発生が多くなるので注意する。 2. 発生地では、は種量を多くする。 薬剤防除 1. 種子粉衣 2. 種子塗沫
アブラムシ類 (ムギクビレ アブラムシ) 絹糸抽出期以 降	薬剤防除 1. 茎葉散布 絹糸抽出期以降7～10日間隔で2回散布する。ただし、高温年は発生量が増加するので、追加防除を検討する。
カメムシ類 雄穂抽出期以 降	薬剤防除 1. 茎葉散布
アワヨトウ 発生時	薬剤防除 1. 茎葉散布 移動性害虫で突発的に多発するので、発生予察情報等に注意し早期発見に努め防除を行う。
アワノメイガ 7月中旬～8 月中旬 7月上中旬 (8、9月ど り)	耕種的防除 1. 茎稈は、晩秋あるいは翌春処分して越年幼虫密度の低下を図る。 薬剤防除 1. 茎葉散布 普通栽培（標準）で雄穂抽出の前後に7～10日間隔で実施する。 2. 8、9月どり栽培では、7月上中旬に約10日間隔で2回実施する。
カラス は種前	薬剤防除 1. 種子粉衣

病害虫名及び 防除時期	防除方法及び注意事項
	(1) 粉衣は、は種前に行い、5～10分間陰干して使用する。 (2) 残薬、使用したビニール袋の洗浄液などが河川に流入することのないように注意する。

(ウ) スイートコーンにおける黄色 LED を利用した鱗翅目害虫の防除技術

黄色 LED を夜間に点灯することで夜行性鱗翅目幼虫（アワノメイガ、オオタバコガ、ヨトウガ等）による被害を抑制することができる。

1. 点灯時期

生育初期～収穫時までの期間、日の入り前～日の出後まで点灯する。

2. 設置方法

草冠部が1ルクス以上の照度となる間隔、高さ及び角度で設置し、草丈に応じて設置高さを調整する。

3. 品種

雌穂先端部が露出しにくい品種を用いる。

(エ) クリーン農業技術（病害虫防除関係分）（スイートコーン）

○化学的防除の効率化

・突発・移動性害虫は、発生予察情報を活用し、他害虫と同時防除

○物理的防除

・タネバエ対策として、後期直後のグリーンマルチの設置とは種直後から発芽揃いまでの長繊維不織布によるべたがけ